

【生薬名】 枇杷葉 *ERIOPHYLLAE FOLIUM*

【起源植物】 ビワ *Eriobotrya japonica*



【科名】 バラ科 *Rosaceae*

【別名】

【薬用部分】 葉（硬くなった葉を使う）

【主成分】 青酸配糖体アミグダリン、サポニン、有機酸、VB1、タンニン

【薬性】 気味は苦平、帰経は肺胃に属す

【効能】 ●化痰止咳・和胃止嘔

●肺熱・胃熱をさますための常用薬

●肺熱による咳嗽で気管支炎などに1日20gを煎服する

●口渴、健胃、止渴、鎮咳、消炎、利尿薬として利用

●咳止め、暑気あたり、胃腸病、腎臓病に2～4gを煎服

●あせも、生の葉5～6枚を水500mlで煎じ、その液で患部を洗ったり、多量の生の葉を入れて入浴をする

●暑気払いに枇杷葉、藿香、木香、呉茱萸湯、肉桂、甘草、菝葜などを配合してお茶として飲む（枇杷葉湯）

●枇杷葉は熱を泄し能く肺気を清め、咳を止め、又胃逆を降し嘔を止める作用がある

●民間では皮膚炎やアセモに葉の煎液で湿布したり浴剤とする

●疲労回復・健康増進に薬酒を1回20mlを1日2、3回服用

『枇杷酒』：果実1kg、ウヰリカ1.8ℓ、グラニュー糖150g、3～6ヶ月熟成

【出典】 ●胃を和し気を下し熱を清し暑毒を解し脚気を療する（本草綱目）

●枇杷葉 平、肺を清め渴を止め、久嗽面瘡、卒嘔奪う可し。（薬性歌）

●療傷食吐逆、熱嗽。（一本堂薬選）

【備考】 ●使用する際に葉の表面の絨毛を取り除くこと、吸い込むと気道粘膜を刺激して喘息を誘発することがある

【処方例】 ●辛夷清肺湯、和中飲、枇杷葉湯